平成18年度四手井綱英記念賞　選考理由

授賞対象論文

佐藤拓哉・名越　誠．2005.

山地渓流域における淵の造成による河川環境の局所的回復と魚類個体群の短期的な反応．関西自然保護機構会誌，27（1）：35－43.

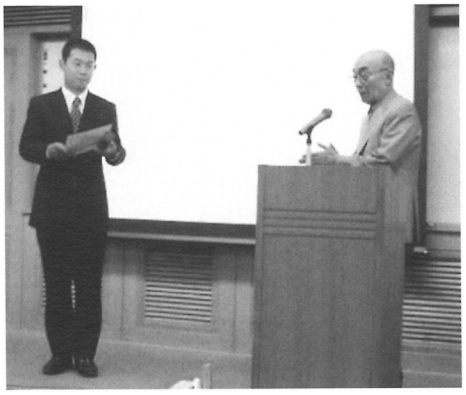
選考理由

現在，イワナ，アマゴ，ヤマメなど在来サケ科魚類個体群は全国的に減少傾向にあるが，その減少要因の一つとして，河川環境の荒廃があげられる。本研究は，ヤマトイワナの地域個体群キリクチ及び同所的に生息する渓流性魚類を対象に，河川環境の人工的復元により個体群の保全を試みたものである。

本研究の調査地域の渓流域においても，スギ・ヒノキ人工林への改変や林道の設置などの影響による土砂の流入で，淵が減少するなど，渓流魚類の生息地の本来の多様性が失われている。調査は，キリクチの生息する流域において，丸太などを用い，淵を人工的に作り出した２つの調査区と，対照区において実施された。人工淵造成実験後に魚類の生息状況を調べ，実験前および対照区と比較したところ，キリクチをはじめ複数の魚種の多くの個体が人工淵を利用しており，個体数の増加が確認された。すなわち，人工淵のような河川環境における生息地の局所的，人為的な多様化であっても，渓流魚の保全手法の一つとして有効であることが示された。

このように，山地渓流域での淵造成による河川環境の人為的多様化により，魚類の生息地が確保できることを示した点で，本研究は評価される。その成果は，河川域における魚類の保全研究での今後の一つの方向性を示した，という意味でも優れた研究と高く評価することができる。

以上のことから，本誌27巻１号（通算49号）に掲載された論文，「山地渓流域における淵の造成による河川環境の局所的回復と魚類個体群の短期的な反応」に2006年度四手井綱英記念賞を授与する。



千地会長より四手井賞を授与される佐藤氏（2006年６月24日）.

（関西自然保護機構理事会　記）